

事前準備



- ・小さなことからコツコツとできることをやっていきたい
- ・がれきや災害ごみをどう処分するかを決めておく
- ・備蓄品を充実させる（特に食料品やトイレ）
- ・住宅の耐震化を行う
- ・まず自分の命を守る準備をしたい
- ・一人ひとりが自分のやりたい分野で地域に貢献できれば良い

共助力を高める



- ・地域の色々な会に参加して、顔を合わせる
- ・近所の家を把握しておく
- ・世代を超えて繋がっておく
- ・災害時に、全員で声を掛け合える関係を作る

復興



- ・子どもを巻き込んでまちづくりを考えていきたい
- ・市の公共用地を事前に示しておくことで、復興のイメージがしやすいのではないか
- ・復興に関する様々な情報を行政から発信してほしい
- ・事前にできることを整理し、復興をできるだけスムーズにしたい

事前復興まちづくり計画ワークショップを通して感じたことなど

●事前復興について

- ・復興期のことを日頃から考える機会がないため、イメージが湧かない
- ・家屋の被害状況で復興に関する意見がまとまらないのではないか
- ・「防災」、「減災」はイメージしやすいが、復興はイメージしづらかった
- ・応急期と復興期の違いが難しかった
- ・共助力を高めることは難しいと感じた
- ・震災を経験していないため、事前に何をすべきか分からない



●今後の取り組みについて

- ・ワークショップ参加者から、発信していきたい
- ・学校行事に参加する
- ・学校教育で復興の大事さを教える
- ・行政の事業に対して、いかに住民の協力を促すかが重要である



●お知らせ

「地区別事前復興まちづくり計画(潮江地区)」の計画書が作成できましたらホームページ上に掲載させていただきます。

過去のワークショップニュースもホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

●お問い合わせ先

高知市 防災対策部 防災政策課  
事前復興まちづくり担当  
TEL : 088-823-9055  
FAX : 088-823-9085  
Mail : kc-080200@city.kochi.lg.jp

# 高知市 事前復興 まちづくり ニュース VOL.3

R8.4.28

## 潮江地区

### 事前復興まちづくり計画 第3回ワークショップ (潮江東小学校区) を 開催しました!

地域の方  
14名参加

ワークショップでいただいたご意見のまとめ  
意見交換3は2、3ページ、ワーク5は4ページです

3月11日(水)、潮江市民図書館で、潮江地区事前復興まちづくり計画第3回ワークショップ(潮江東小学校区)を開催しました。意見交換3では、今までの地域の方の意見を反映した「最終復興ビジョン」、「最終復興パターン」についての意見交換を行い、ワーク5では「災害が起きる前からできること」について、みんなで話し合いました。



●ワークショップの進め方・内容



第1回 R7.7.25開催

ワーク1 潮江の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていること

ワーク2 復興パターン2案について



第2回 R7.12.3開催

ワーク3 楽しくなるような未来のまちを想像する

意見交換1 復興ビジョンについて

意見交換2 修正復興パターンについて

ワーク4 速やかに復興するために必要なこと



第3回 R8.3.11開催

意見交換3 最終復興ビジョン、最終復興パターンについて

ワーク5 災害が起きる前からできること



決定! 潮江地区 地区の目指すべき姿=ビジョン

『絆を深め助け合い 暮らしやすさと安心を未来へ』

ワークショップでは、「いざという時に助け合える人のつながり(絆)こそが、復興には欠かせない」という熱い思いが多く寄せられました。また、身近な山々が「憩いの場」と同時に、「命を守る避難所」でもあるという潮江ならではの強みも再確認できました。ビジョンには、今の便利で豊かな暮らし(自然と利便性)を守りながら、住民同士が手を取り合う(共助)ことで、次の世代へ「安心な潮江」をしっかりと引き継いでいくという強い決意を込めました。

【決定の経緯】

ワークショップ等で約7割(67%)の支持を得た案2をベースに、「人のつながり(絆・共助)」を復興の最も大切な柱とし、これに加えて、1案で評価が高かった「交通の利便性」と、3案で大切にしたいとされた「筆山・高見山の豊かな自然」の両方を、潮江の誇りとしてビジョンの構成要素に取り入れ、前向きな「安心」や「未来」という言葉を選ぶことで、子どもたちも覚えやすく、明るい希望が持てるスローガンとしました。

前回お示した地区の目指すべき姿=ビジョン

- 案1 第1回ワークショップにて提示 『つながる安心 自然と共に生きるまち』
- 案2 「防災」と「コミュニティ」を主軸 『深まる絆 災害にも強く、安心な暮らしを未来へつなぐまち 潮江』
- 案3 「自然」、「都市」、「歴史」を主軸 『自然と都市が調和し、歴史の魅力に溢れたまち  
～山・川・海と共に歩む潮江～』

皆さまから出た意見

いいね!

- ・この復興ビジョンでいいと思う

全体について

- ・もう少し短くしたい
- ・ビジョンは次世代の人が考えるものであると思う
- ・「鏡川」の要素を入れたい

「絆を深め」の表現について

- ・意味が二重になっているのではないか

「暮らしやすさ」の表現について

- ・「暮らしやすさ」という文言に「利便性」と「自然豊か」という意味が含まれているのが良い



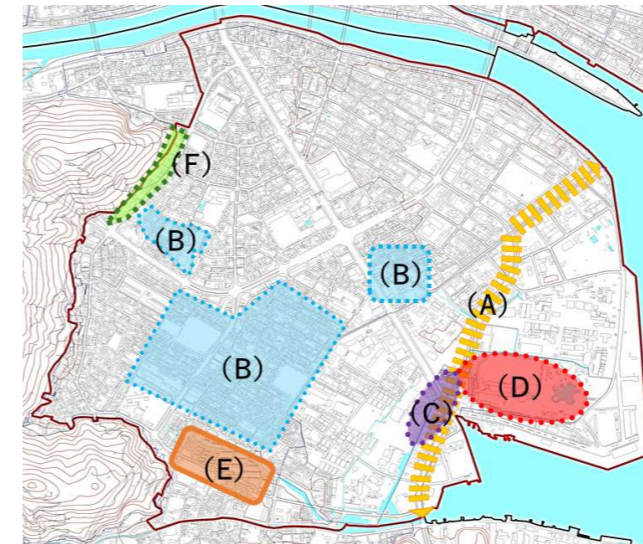
皆様と歩む、これからの未来

事前復興まちづくり計画の核となるビジョンにつきまして、多くの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

皆さまの地域を想う熱い想いを受け止め、今後は潮江小学校区・潮江南小学校区の両ワークショップで出されたご意見をあわせて検討を重ね、この地区にふさわしい最終的なビジョンを決定してまいります。

完成したビジョンは、災害時に地域の復興を導く、私たちの指針として大切に受け継いでまいります。

(最終案)二線堤形成案

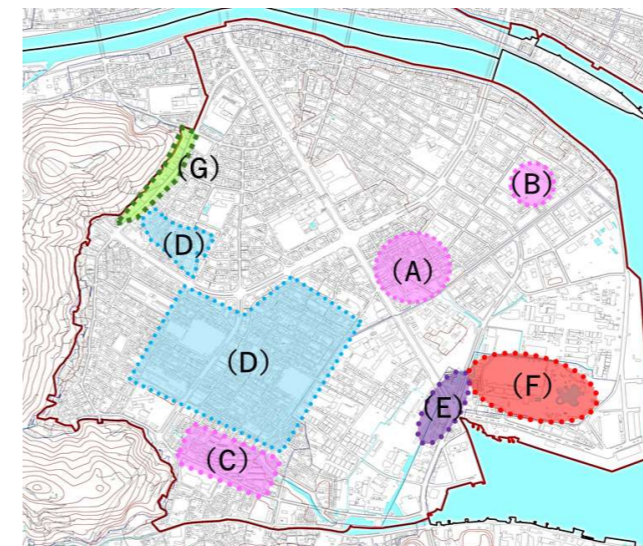


- (A) 二線堤
- (B) 土地区画整理事業 道路基盤整備検討
- (C) 建築制限による誘導 1階部分の非居住化
- (D) にぎわい形成 にぎわい施設の立地誘導
- (E) 市営住宅有効利用 空き室の利用を検討する
- (F) 土砂災害対策

「二線堤形成案」に対する意見

- ・二線堤を整備する位置は、この位置がベストだと思う

(最終案)防災拠点形成案



- (A) 防災拠点+高上げ(賑わい+居住) 共同化、再開発事業による高層化
- (B) 防災拠点(萩公園:高台整備) 津波避難機能の整備
- (C) 防災拠点(市営住宅有効利用) 空き室の利用を検討する
- (D) 高上げ+土地区画整理事業 道路基盤整備検討
- (E) 建築制限による誘導 1階部分の非居住化
- (F) にぎわい形成 にぎわい施設の立地誘導
- (G) 土砂災害対策

「防災拠点形成案」に対する意見

- ・(A)の箇所に住んでいるが、立ち退きの費用等がどうなるのか。本当に戻ってこれるのか

共通意見・その他意見

心配なこと

- ・揺れによる宅地の被害が想像できない
- ・液状化が心配である
- ・堤防沿いに生えている木が、河川の増水時に影響しないか心配である

アイデア

- ・復興を機に道幅を広げたい。
- ・個人の再建が難しいため、集合住宅を整備するのはどうか
- ・これから先の人口減少も考慮しないといけない(定期的な見直しが必要)
- ・県と市で協力して、事前にできることがあればしてほしい
- ・100年後の災害に備えることが本当にふさわしいのか(過大すぎるため、もっとスピード再建できないか)